

「ヤングフェスティバル」

設立5周年記念企画「ヤングフェスティバル」は、中学生から20代までを対象に一般公募で開催されました。

集まった全員でどんな舞台にしていくか話し合い、エンディングの演出をアカペラコーラスグループ「ジュレップス」の松山優太さんが担当しました。照明は西武学園文理高等学校演劇部（顧問・勝又俊実）が、市民会館・舞台担当の協力を得て操作をしました。司会は武蔵野学院大学で学んでいる、アナウンサーになるのが夢だという田崎智恵さんと飯島香里さんの二人で会場に花を添えてくれました。

発表の場を探していた太田みどり先生のジャズダンス教室や、オリジナル子どもミュージカル劇団「にこっとちゃ茶」に、ギター（高橋史典さん・延与啓之さん・鈴木秀人さん）やピアノ（根本佐和子さん）「狭山茶つみ太鼓」の演奏など内容は盛りだくさんでした。



チラシづくりや舞台転換に関わる若者たちに出会って、舞台を企画する機会を若い世代にもつくり続けたいと感じました。

「ヤングフェスティバル」統括 岸野 智子

舞台の一担当として

「喜・怒・哀・楽・そして未来へ」の裏方を、華野さんたちと担当し、「ツルサンズカンパニー」の演出の一部始終を知り、勉強となることが多かった。

よりよく見せるようにする妥協のなさ。裏方がリハーサルでは大声で叱られ、何度もやり直し。「場ミリ」では、大道具、楽器の位置決めはミリ単位？の細かさ。

本番の場面転換では大汗の連続だった。幕が下りて出演者共々、裏方の全員に最大限の感謝とねぎらいをもらった時、プロの真髄を見た。ツルサンズのご夫婦の役割分担にも好感。

狭山市民謡協会 高沢 正夫

《 5周年記念・特集号について 》

2月号でお知らせいたしました特集号は、予定通り2月26日・27日両日、「狭山市民芸術祭」でお配りいたしました。編集上の不手際があり、以後配布を控えております。

編集の過程で、十分な配慮を欠いてしまい、関係の方々には大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。この件につき、3月16日の理事会において協議した結果、一部刷り直しをした上で、配布を再開することにいたしました。もうしばらくお待ちください。

今後とも、文化団体連合会の活動に引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月25日

狭山市文化団体連合会 会長 小高誠太郎

編集委員一同

植野瑛子さん逝去

文団連理事、狭山市美術家協会代表・植野瑛子さんは、2月6日、肺ガンのため、69歳で逝去されました。

文団連会員一同、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。